

京都のお
まのエコ

死見

東福寺のエコ

いせき まき明

死見のよく室

ふつうならば、お湯をわかし
めくそうにつかるが東福寺の
場合、ちがう。東福寺は今
で二〇〇とこころのガウナ風呂
であった。当時は百人近い修行
そうがいたためもしみんながよく
そうにつかるとしたら、たいりよう
の水とまきを使うことになる。
水はともち、うだったためそん
事はできない。だから東福寺は、お
湯をはりその上にぬのを、きじょう
う気で体のあかをふやかして、こ
すり落とす事で、湯を使うりよう
をせつめくし、自ぜんと大切にしていま
たのです。

死見のよく室

がむ人のどこがエコなのかきに
なる人もいるでしょう。がむ人のど
こがエコかと、二〇〇と時間大切に
しています。なぜかと言いつても決ま、た時間
に決ま、た事をやるからエコです。

死見の東司

東司とは、こうでいう所の
トイである。昔は、りょう
として人間のはいせつ物を
使っていた。そのため東福寺
は、はいせつ物をおるりょうさん
に売、りそのひりょうで、野ま
まつくってもらう。その野まを、
りょうを売、てりょうで、まら、
たお金で、りょう。

高田口寺のエコ

死見の牛

高田口寺で、牛だエコは、物を大
切にするこ、とです。二百年たう
と物にたま、いがむ、るとま、あ
れ、ていま、すがまだ、使、える物を九
十九年、で、捨、て、しま、い、その物がよく
がいになり、一夜のま、ま、行列、で、赤、
く、と、ま、あ、り、そのま、ま、を、ま、ま、夜、行
と、ま、い、ま、あ、り。

まき明

エコは、自、ぜ、ん、だ、け、で、は、なく、
時間、が、物、も、ふ、く、ま、あ、り、て、人、間
は、と、ま、あ、り、エコを大切に、し、か
人、き、ふ、く、ま、あ、り、と、ま、あ、り、を、大、切、に、し
て、いた、た、の、で、あ、る。